

## 自分らしい生き方、働き方を探して

働く女性のキャリアの道は、必ずしもまっすぐとはいかないことも多いはず。ライフイベントに応じて柔軟な対応を求められることもあるでしょう。今回は編集のキャリアを積んだ女性とものづくりに力を注ぐ女性で、管理職という立場にもあるお二人に話を伺いました。

ライターからディレクターへ  
リーダーとして人材を育てる

ノリット・ジャポン株式会社  
企画クリエイティブ事業部 部長  
町田 香織 さん

秋田市出身。大学進学で上京し卒業後の2000年、編集アシスタントの仕事に就く。2006年に家族とともに秋田市へ。2012年にノリット・ジャポン入社。高校生、小学生の2男の母。最近の楽しみは、週に一度テニススクールに通うこと。

## 01 「書く仕事」を求めて

秋田市の地域商社のノリット・ジャポンで、企画クリエイティブ事業部の部長を務める町田香織さん。ノリット・ジャポンは「食」をキーワードとして秋田の魅力をPRする会社。秋田産品の食品の企画、パッケージデザインをはじめ、飲食店の運営など事業は多岐にわたります。町田さんは、ディレクターとして自身もプロジェクトを進めながら、所属するスタッフを束ねる立場にあります。

学生時代「情報を発信する側になりたい」と、編集者や記者を目指し、東京での就職活動を行いました。大学卒業後、情報誌の編集アシスタントとなり、現在の仕事にもつながる編集のスキルをそこで身に付けました。

## 02 出産・子育て後のキャリア

26歳で結婚、28歳で妊娠した町田さん。子育ての環境について考えた結果、妊娠7ヶ月で故郷である秋田に戻る決意をし、10年ぶりに秋田での暮らしをスタートさせることになりました。出産してしばらくは子育てに専念していましたが、子どもが1歳半になったころ、地域の子育て情報誌を制作する会社に就職し、ふたたび編集者としてのキャリアを再開させました。さらに、編集の経験を生かして雑誌制作の仕事を探していたところ、

ノリット・ジャポンに出会い、入社。秋田の魅力を発信するフリーペーパーの制作、県産品のPRなどを手掛け、会社の成長とともに町田さんも仕事の幅を広げてきました。

## 03 期待を超える提案を

「誰に向かって発信しているのかが見えにくかった東京での仕事と比べて、近い距離でお客さまとやりとりができるのが秋田で仕事をする魅力」と町田さん。「こんなことがしたい」という顧客からの相談を、ビジネスの創出につなげるディレクターの仕事にやりがいを感じています。「東京と比べて、要望にただ応えるのではなく、期待以上の提案を示すのが力の見せどころ。困ったらノリットに聞いてみよう、と思われる存在でいたいですね」と笑顔で話します。

管理職としてやりがいを感じるのは、伸び悩んでいるスタッフが殻を破ったと感じる瞬間です。「仕事の進め方などを明確に指示するようにしていますが、彼らに育てもらうには手を出し過ぎないことも大切です」と話し、部下の成長につながる経験を奪わないよう心掛けています。スタッフの仕事を見守りつつ、さらなる活躍に期待を寄せています。



## わたしのキャリアキーワード

「せばなんとす」  
(さあどうしようか)

横手市の酒蔵でかつて杜氏をしていた故・森谷康市さんの言葉です。どんなに経験を積んでも、予想もしていなかったようなことが日々起きます。そんなときに森谷さんの言葉思い出し、楽しみながら立ち向かっています。

部下より一言!  
町田部長は全体を見ながら部内をまとめ、それぞれの仕事の進み具合を細やかに見てくれる存在です。困ったことや判断に迷う時に的確なアドバイスももらえるので、安心して仕事ができます。母親として先輩でもあり、子どものことも気にかけてくれます。今私がこうして働ける環境なのは、部長が前例となって働き続けてきたおかげだと感じています。

企画クリエイティブ事業部 編集者・プランナー  
境 由香さん



株式会社ホクシンエレクトロニクス  
モノづくり部 モノづくり2課 担当課長

## 村上 まり さん

秋田市出身。高校卒業後、派遣で製造業の仕事を経験。ものづくりの経験を買われて、2010年株式会社ホクシンエレクトロニクスに入社。2022年より現職。好きなことは県内外のカフェ巡り。



## 01 「ものづくり」に熱意

株式会社ホクシンエレクトロニクスは、半導体装置や液晶露光装置などの電子機器の開発・製造を行っています。近年、女性が働きやすい職場づくりに力を入れており、新たに創設した女性の管理職の一人が村上まりさんです。モノづくり2課の担当課長として、電子機器部品であるハーネスの製造管理などを行っています。

もともと手先が利くタイプの村上さん。派遣の仕事でいくつかの工場勤務を経験した後、ホクシンエレクトロニクスに社員として迎えられることになりました。「一日に製品を何個仕上げられるか」と日々自分との闘いに挑戦していたというほど、ものづくりの仕事にやりがいと意欲を感じていました。

## 02 課長への昇進にためらい

同社で経験を積み、リーダー、さらに主任へとステップアップした村上さんですが「次は課長だよ」と言われたことには戸惑いがありました。人の先頭に立ったり指示したりするのは向いていないと思っていたからです。私はひたすらものづくりをしたいと、昇進を断り続けたとのこと。

それでも担当課長になることを決意したのは、上司や同僚が背中を押してくれたから。「この会社なら(課長を引き受けて)いいかな、と思えるようになりました」と村上さん。社長をはじめ、社員が役職名ではなく名前呼び合い、責任を一人に押し付けるようなこともありません。困ったことがあると素直に相談して、助けてもらうことも多いと話します。

## 03 やりがいある仕事を後輩にも

もともと社長を含めて上司と気兼ねなく会話ができる環境でしたが、担当課長になって自分の意見をより聞いてもらえるようになったことを村上さんは実感しています。従業員の声を上に届ける橋渡し役でありたいと、女性の多いモノづくり2課でほどよい距

とにかく「ものづくり」が好き  
管理職になり新たな挑戦を

とにかく「ものづくり」が好き  
管理職になり新たな挑戦を



## わたしのキャリアキーワード

「明るく・楽しく・元気よく」

尊敬する上司がよく言っていた言葉です。自分が明るくしていなければ周りも明るくならない。やるなら楽しく仕事したい。元気があれば仕事もプライベートも充実できる、そう思っています。簡単なようで難しいことですが、いつも心掛けています。

離感を持ちながら話しやすい雰囲気を感じています。また、女性自身が管理職になることへの抵抗感をなくし、昇進できる土台をつくるのが自分の仕事と考えています。力を入れているのが、子育て中の女性も働きやすい環境づくりで、現場の急な休みに対応できるように、従業員が互いに担当外の工程にも入れるようにスキルアップを図り、時には自分も現場にカバーに入るなど柔軟に対応しています。

併せて、ものづくりの会社にある「いかにも工場」というイメージを変える活動もしており、工場の内装を変えたり、制服を新しくしてきました。「女性に選ばれる職場を目指し、地域に根差した事業を進めていきたい」と話してくれました。

## 上司より一言!

村上さんのリーダーシップは抜群で、忙しい時など自分から先頭に立って動くムードメーカー的な存在です。職場の環境づくりにも力を入れていて仕事しやすいと子育て世代の社員からの信頼も厚いです。電子機器組立1級といった国家資格の取得にも挑戦していて、技術の向上にも余念がありません。今後の活躍に期待しています。

モノづくり部 部長  
天野 崇さん

